

新旧のバランスがよく取れた 熊本が大好きです。



◇熊本工大高等学校英語講師 ウィリアム・ホルトさん

プロフィール
米国ジョージア州アトランタ生まれ。1957年に海兵隊員として来日して以来、数年おきに米国と日本を往来。一昨年11月より熊本工大 高の英語講師として来熊。本国での仕事は、ジョージア州少年審判所主任保護観察官。



の内訳は？また始められたきっかけを教えてください。

柔道四段、剣道三段、弓道二段、空手道三段、居合道二段、そして杖道が初段です。結婚して一年ほど経ったとき、たまたまテレビで「姿三四郎」を見ていた妻が、「あなたもやってみたら」と言ったのが始まりです。柔道、剣道

をはじめ、多くの道で非常に真面目で人格的にも尊敬できる良い先生と出会えたことは本当にラッキーでした。

熊本にはそういった古い武術・武道がたくさんありますね。古武道のデモンストレーションを見たことがありますが、流鏑馬や武蔵の二刀流など大変興味深かったです。

—日本の本もよくお読みになつていらっしゃるのか？

ええ、川端康成とかね。夏目漱石は全部読みました。もちろん英語です。小泉八雲の「東の国から」も愛読書の一つです。武蔵の「五輪書」も読みました。熊本で彼らの足跡をたどるのも私の楽しみです。

熊本には本当に古い歴史を感じさせる所がいっぱいありますね。加藤清正や細川家の歴史が残る熊本城や加藤神社、水前寺公園、八代城、それに松浜軒の菫浦も見事です。なかでも、二〇年前、妻の兄の案内で初めて訪れた熊本城はとても気に入っています。熊本ファイティングスピリットを感じますね。熊本城に行くと、一〇年前に亡くなったその兄のことを思い出します。

—工大高で教壇に立たれて、日米の高校の違いをどうお感じですか。
そうですね、まず一番に感じたこと



は、先生と保護者のコミュニケーションがよくとれており、生徒を見守っているということ。米国では、生徒は日本のように先生や保護者によって厚く保護されてはいません。ですから何かことが起これば、法律に基づいて裁判所や専門家が対処します。米国は自由システムというのでしょうか、社会のシステムが日本とは違うので一概にどちらが良いとは言えませんが、しかし、日本の学校の担任の先生は本当に一生懸命やっていますね。

私は週一、三回剣道部の練習に参加していますが、スポーツ部の先生と生徒のコミュニケーションには素晴らしいものを感じます。生徒は先生が何を求めているかをよく理解しているよう



最後に熊本の印象や提言をお聞かせください。

熊本は古いものと新しいもののバランスがよく取れている所だと思います。近代的なテクノロジーと農業、文化がうまく共存している。二十一世紀への提言の中で細川知事がおっしゃっているのも、このバランスのとれた都市づくりでしょう。東京のようにモダンなだけの都市にはなつてほしくありません。私は今の熊本が大好きです。焼酎はちょっと苦手ですが、辛子れんこんも馬刺しも納豆も好き。少しでも長く熊本にいたいと思っています。